

美術館の展示室における空間構成に関する研究

展示室の大きさと空間の接続の考察を通して

A Study on Space Composition in Exhibition Space of Museum

Through a consideration of size and space connection in the exhibition space

○堀内里菜¹, 佐藤慎也²
*Rina Horiuchi¹, Shinya Satoh²

In recent years, many of the exhibition space of the museum is a box with a white wall. Because style of "White Cube" and flexible space was required. But now, for the type of art has been diversified, request for the exhibition space has been changing to "diversity" from the "flexible". Therefore, in museums, the exhibition space is pursuing a "space for art" has been made, not stick to the "White Cube". In this paper, defined as "the exhibition space that can achieve a variety of exhibition" "space for art". In this study, by understanding the trends related to space composition of the exhibition space, hope that will guide for design method in the exhibition space of the museum.

1. 背景

近年、美術館の展示室の設計において、ホワイトキューブというスタイルが定着している。それは「展示作品を阻害するような余計な装飾、色を極力排した展示室^{注1)}」であり、真っ白い壁を持った長方形平面を持つ部屋であることから、ホワイトキューブと呼ばれる。さらに、どのような展示に対しても対応できるフレキシブルな空間が求められたことにより、大型の展示室が要請されてきた。しかし現在では、現代アートの出現により展示室に対する要求が変化しつつある。現代アートの出現以前の「アート」という言葉から連想できる作品の種類は限定でき、アートと空間は切り離されたものであった。一方、今日では「アート」という言葉が指す作品の種類は曖昧で、アートと空間が一体となった作品も多く存在しており、アートと展示室の関係はより重要なものとなってきている。そのため、美術館においても、ホワイトキューブに固執しない、「アートのための空間」を追求した展示室がつくられてきている。

2. 研究目的

2-1. 研究目的

美術館の展示室を設計する上で、「アートのための空間」が「展示室の独自性」によって作り出されていることが重要であろう。ここで示す「アートのための空間」は、多様な展示手法を実現できる展示室と考える。様々なアートが出現している今、フレキシブルな展示室では担いきれない多様な個性を持った展示室が求められるようになっている。

本研究では、展示室の大きさ、展示室同士の接続、展示室内における視線の変化に着目することで展示室の現状を探る。そして、美術館の展示室の空間構成に関する傾向を把握することで、多様な展示手法を提供できる展示室を明らかにする。

2-2. 既往研究

美術館の展示室に関する研究は、過去に複数の視点で行われている。岡田朋子らの「展示空間の系譜研究-空間のスケール・要素と分節に関する考察」ホ

ワイトキューブ以降の空間把握の変遷^{注2)}は、人間の身体性から展示空間の可能性を示した研究である。田中規之らの「現代美術館における展示空間と展示物との関係性に関する研究」^{注3)}は、展示空間と展示物との関係性を示した研究となっている。ここでは国内のみの美術館を対象として論じているため、国外の美術館を含む展示室の空間構成に関して研究することは意義があると考えられる。

3. 研究概要

3-1. 研究方法

近年に開館した美術館をリストアップし、文献調査から「展示室の大きさ」の分析と「展示室同士の接続」の調査を行う。さらに展示内容、年代による比較を行い、展示室の変遷と現状を把握し、美術館の展示室の空間構成を考察する。

3-2. 研究対象

近年の美術館建築の傾向を把握するため、増築や改修を含む1980年以降に開館した美術館の展示室を対象とする。エントランスや廊下に関しては、美術作品が設置されている場合も対象から除く。

4. 研究

4-1. 事例

4-1-1. バルセロナ現代美術館（スペイン）

表1 展示室の大きさ（バルセロナ現代美術館）

展示室	形状	壁長 (mm)	床面積 (m ²)	天井高 (mm)	開口部
①	長方形	130000	750.00	7059	—
②	円形	38288	251.97	7059	—
③	長方形	130000	750.00	7059	—
④	円形	38288	251.97	7059	—
⑤	長方形	130000	750.00	11765	—

i. 展示室の大きさ

5室3層の展示室からなる。展示室は表1に示す大きさで構成されている。床面積750.00 m²の①③⑤は、間仕切りにより小さな空間に分割できるように工夫されている。これは、1985年以降の作品をコレクション

ンする美術館に対して、多様な展示空間を提供するためである。⑤の天井高が 11765mm と高いことも特徴である。

ii. 展示室同士の接続

図 1 に示すように、5 室全ての展示室が接続する空間は廊下である。また、上下の移動手段である各階を繋ぐスロープにより、鑑賞者は常に美術館における自分の位置を把握することができる。しかし、スロープと展示室内部の視線は遮断されているため、作品に対する視線は一定となる。これを補完するようにスロープ脇の壁を展示壁とし、上下の移動を繰り返しながら鑑賞できる環境も整えている。

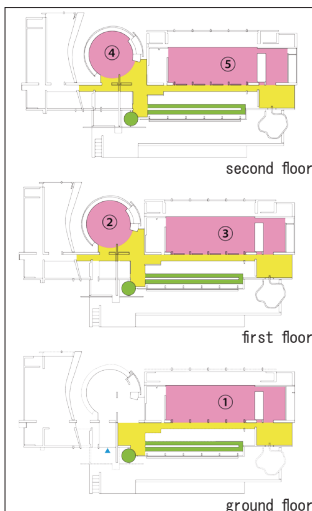


図 1 平面図 (バルセロナ現代美術館)

4-1-2. ポンピドゥーセンター・メス (フランス)

表 2 展示室の大きさ (ポンピドゥーセンター・メス)

展示室	形状	壁長 (mm)	床面積 (m ²)	天井高 (mm)	開口部
①	変形	145000	1196.50	12000-18000	—
②	長方形	192000	1215.00	4800	全面
③	長方形	192000	1215.00	5300	全面
④	長方形	192000	1215.00	5300	全面

i. 展示室の大きさ

4 室 4 層の展示室からなる。展示室は表 2 に示す大きさで構成されている。②③④は機能的な空間を目指したため、幅、奥行きとも等しく、大きな空間となっている。展示室の両端に大きな開口部があることも特徴である。①は最高の天井高が 18000mm あり、大規模な展示にも対応できる。

ii. 展示室同士の接続

3 室の展示室の大きさは同じだが、平面の形状が細長い長方形であること、短い辺が 15000mm と十分な長さを持つことから、仮設壁の設置によって異なる 3 室の空間を演出することができる。3 室の開口部の角度が異なる点も、別の空間体験ができる要因である。

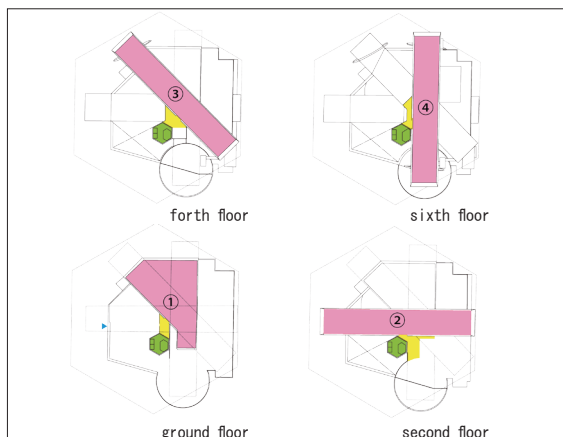


図 2 平面図 (ポンピドゥーセンター・メス)

4-2. 展示空間の比較

7 つの美術館をピックアップし、各展示室の大きさの比較を図 3 に示す。7 つの美術館は、現代美術を扱っている美術館を選択した。

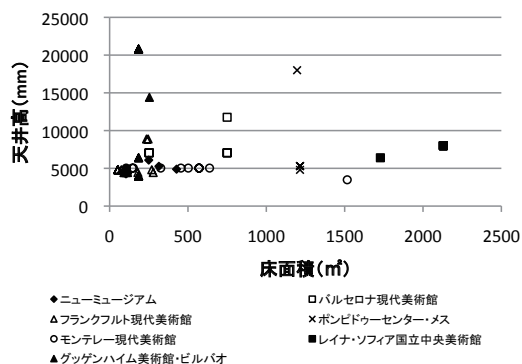


図 3 床面積と天井高による展示空間の比較

i. 床面積

800 m²以下の比較的小さなサイズの展示室と 1200 m²以上の大きな展示室が存在することが分かる。800 m²以下の展示室を積極的に設けることで、各空間の特色を出すことが可能となる。

ii. 天井高

天井高は 3483mm から 20800mm となり、顕著な差が見られる。5000mm 前後の天井高が多いことが分かる。

iii. 床面積と天井高の関係性

床面積 800 m²以下の小さな展示室においては、天井高に差が見られる。一方、1200 m²以上の大きな展示室においては、天井高 5000mm 前後と大きな差が見られない。

5. 今後

展示室の大きさはある数値に集約される傾向にあることが推測される。そのため、「床面積と天井高」「天井高と壁長」「幅と奥行き」を比較し分析する。特に 1000 m²以下の展示室における、床面積と天井高の関係性に注目して分析を進める。さらに、展示室同士の接続、開口部の有無、展示内容や年代による比較を行い、美術館の展示室を把握していく。

【注】

- 1) 第 3 版コンパクト建築設計資料集成, 社団法人日本建築学会, 2007 年 2 月
 - 2) 岡田朋子・平瀬有人・古谷誠章: 展示空間の系譜研究-空間のスケール・要素と分節に関する考察 ホワイトキューブ以降の空間把握の変遷, 日本建築学会大会学術講演梗概集 (北海道), 2004 年 8 月
 - 3) 田中規之・岡河貢: 現代美術館における展示空間と展示物との関係性に関する研究, 日本建築学会中国支部研究報告集 第 32 巻, 2009 年 3 月
- 【参考文献】
- 1) 磯崎新: 造物主義論, 鹿島出版会, 1996 年 5 月
 - 2) K. シュバート: 進化する美術館-フランス革命から現代まで, 玉川大学出版部, 2004 年 11 月
 - 3) 村田真: 美術の基礎問題連載第 13 回, <http://www.dnp.co.jp/museum/nmp/artscape/serial/0105/murata.html>
 - 4) A History of Building Types (A W Mellon Lectures in the Fine Arts), Bollingen Foundation (Reprint 版), 1979 年 12 月
 - 5) GA 現代建築シリーズ 01 (ミュージアム 1), エーディーエー・エディタ・トーキョー, 2001 年 12 月
 - 6) GA 現代建築シリーズ 02 (ミュージアム 2), エーディーエー・エディタ・トーキョー, 2008 年 11 月